

電性間隙水に満たされた砂層の可能性がある。C7 断面と同様、低比抵抗異常を分断する C9-60 ~70 付近の分極率が高くなる傾向があるが、有意な異常とは認められない。

・ C10 断面 (図 64)

調査範囲中央部の Koudiat Safra 鉱床付近を通り北西の丘陵部から南東の平野部に向かって横断する断面である。C7 断面や C9 断面と同様、C10-30 付近の比抵抗不連続線より北西の丘陵側は、三疊系ドロマイトに対比される $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗が分布し、南東側は $20\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗が分布し、中央部の深部と南東部には $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。白亜系堆積岩類が分布する Koudiat Safra 鉱床付近の浅部は $10\sim 20\Omega\text{m}$ の比抵抗を示す。C7 断面と同様に、中央部深部の低比抵抗異常の南東側に 4mV/V 以上の弱い分極率異常がある。

・ C11 断面 (図 65)

C10 断面の 500m 北東を北西丘陵部から南東平野部に向かって横断する断面である。C7~C10 断面と同様に、C11-40 付近の比抵抗不連続線を境に北西の丘陵側は $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗、南東平野部側では $20\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗が広く分布し、中央部と南東部の深部には $10\Omega\text{m}$ 以下の大きな低比抵抗異常がある。本断面には有意な分極率異常は認められない。

・ C14 断面 (図 66)

調査地北東部を北西丘陵部から南東平野部に向かって横断する断面である。断面両端部は $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗を示し、中央部は低比抵抗となっている。中央部の C14-50~80 には深部から浅部に向かって $10\Omega\text{m}$ 以下の大きな低比抵抗異常が延びている。この付近の地表斜面には第三系と考えられる滑り易い砂が分布しており、これが深部まで続いている可能性がある。低比抵抗異常の浅部にあたる C14-60 付近には 4mV/V 以上の弱い分極率異常があり、この付近の地表には掘り跡も見られることから、鉱徴に関連した異常であると考えられる。

・ C15 断面 (図 67)

C14 断面の北東 600m の Koudiat Soda 鉱床付近を通り、北西丘陵部から南東平野部に向かって横断する断面である。断面北西部 C15-30 から北西丘陵部側の浅部は $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗を示し、その下部は $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常となっている。Koudiat Soda 鉱床付近から C15-70 付近には $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常があり、丘陵側と南東平野側の低比抵抗異常を分断している。断面中央部の Koudiat Soda 鉱床付近には、浅部の高比抵抗異常と北西丘陵側低比抵抗異常との比抵抗不連続線に沿って 4mV/V 以上の弱い分極率異常があり、断裂帯に沿った鉱化を示唆していると考えられる。

・ C16 断面 (図 68)

C15 断面の北東 400m を北西の丘陵部から南東の平野部に向かって横断する断面である。断面北西部 C16-30 付近の比抵抗不連続線から北西丘陵部側は $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗を示し、南東側は $50\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗を示す。断面中央部には $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常が広がっている。本断面には有意な分極率異常は認められない。

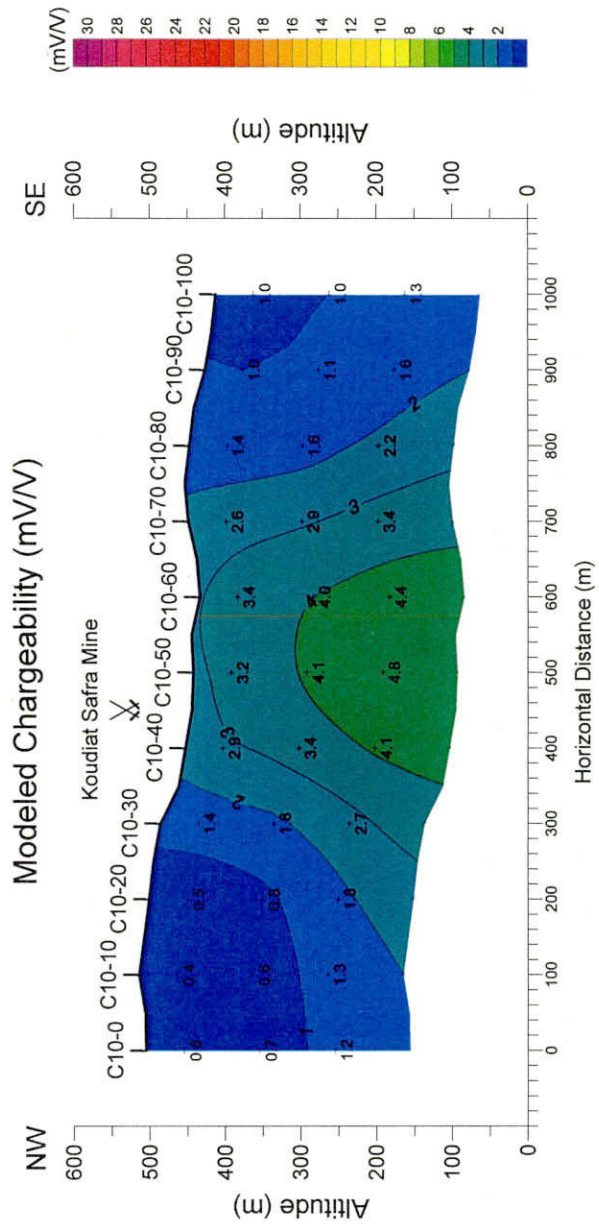
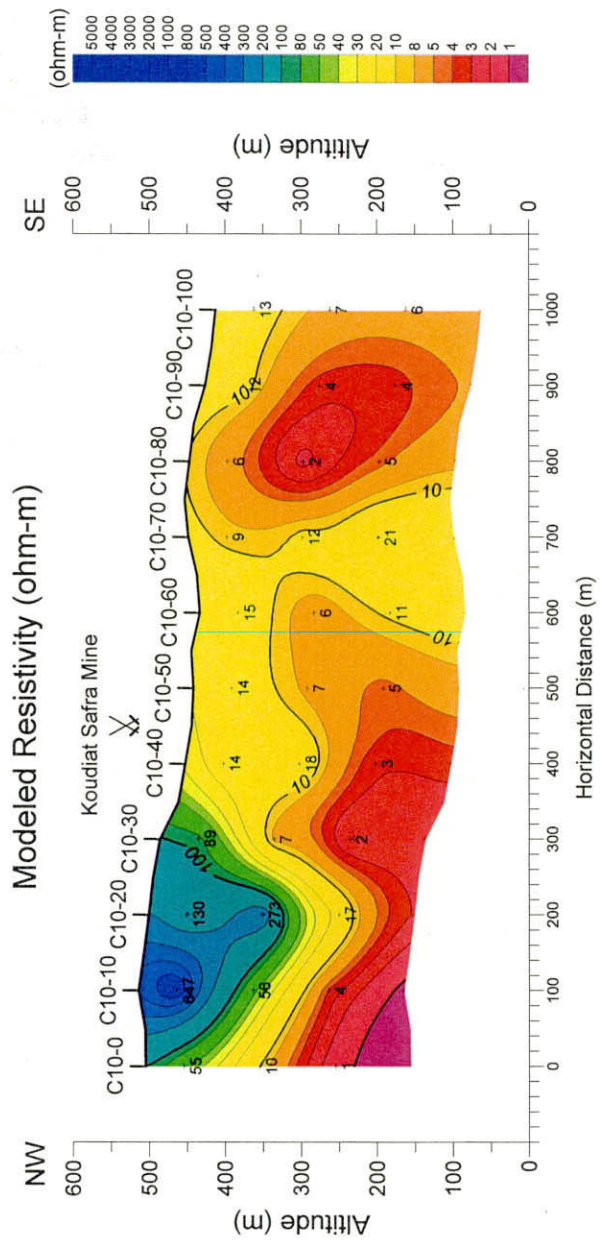


图 64 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C10)

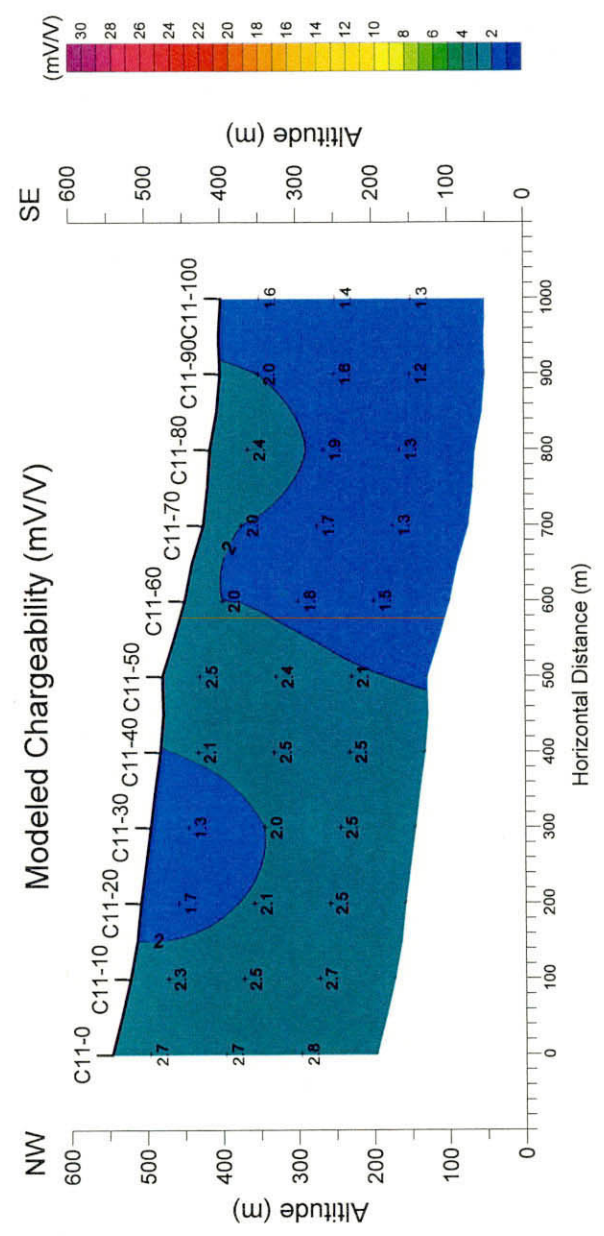
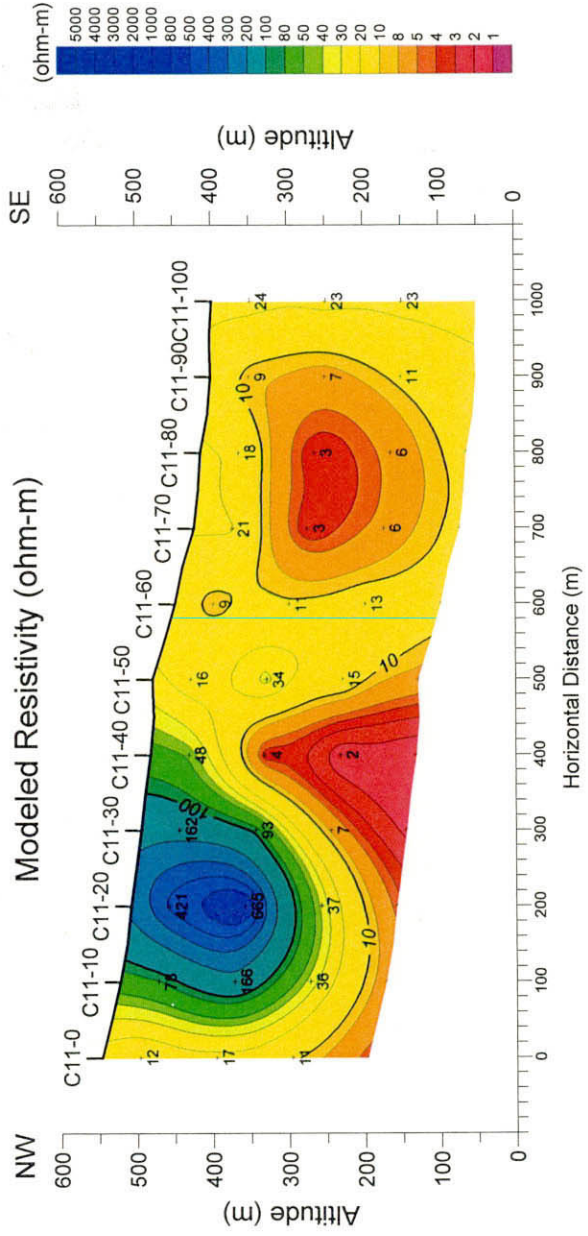


図 65 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C11)

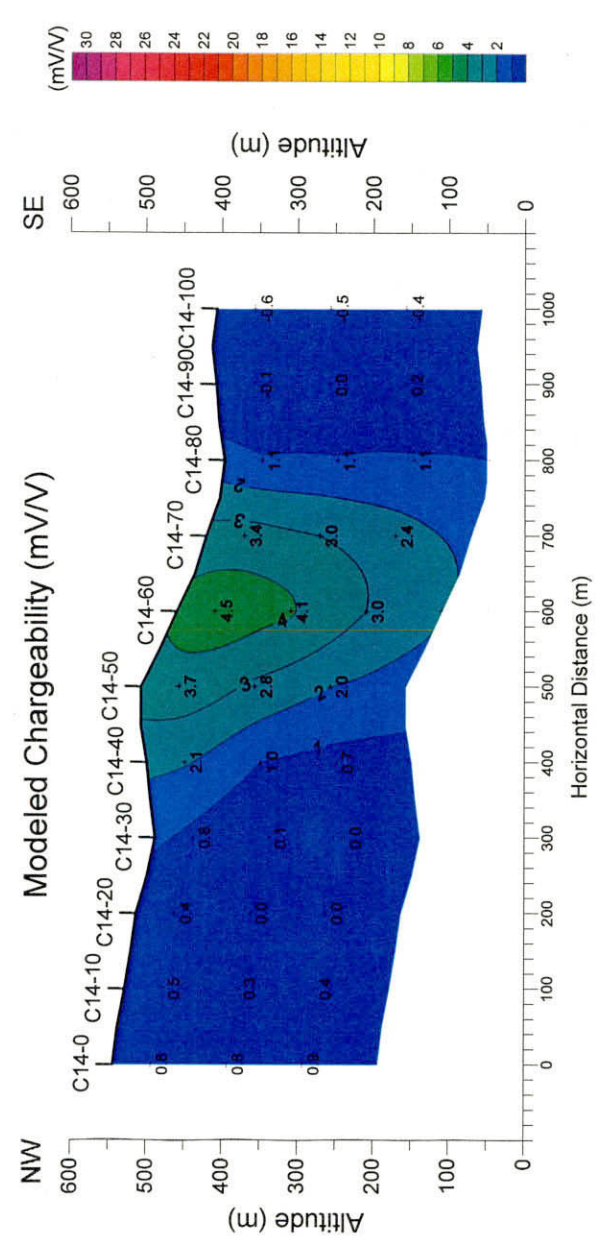
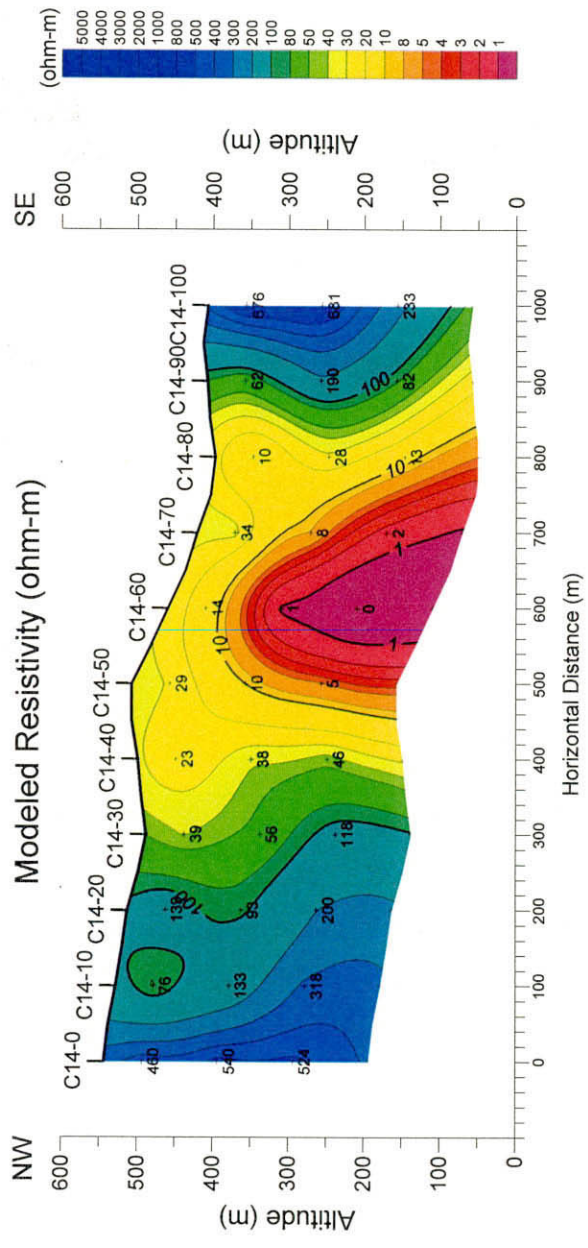


図 66 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C14)

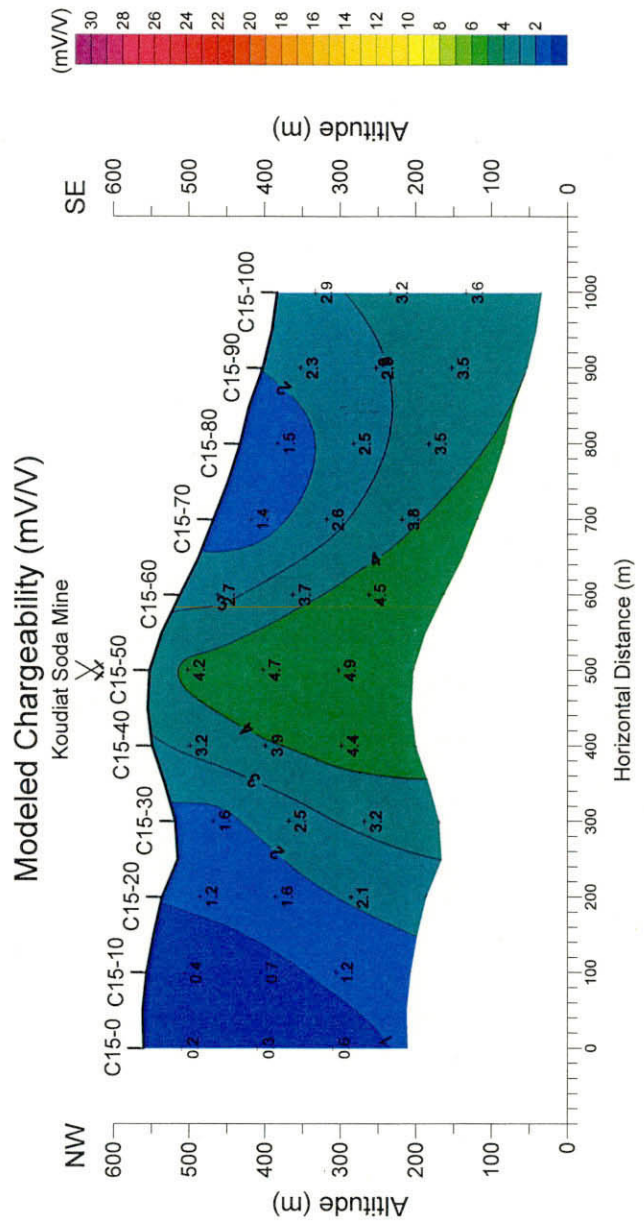
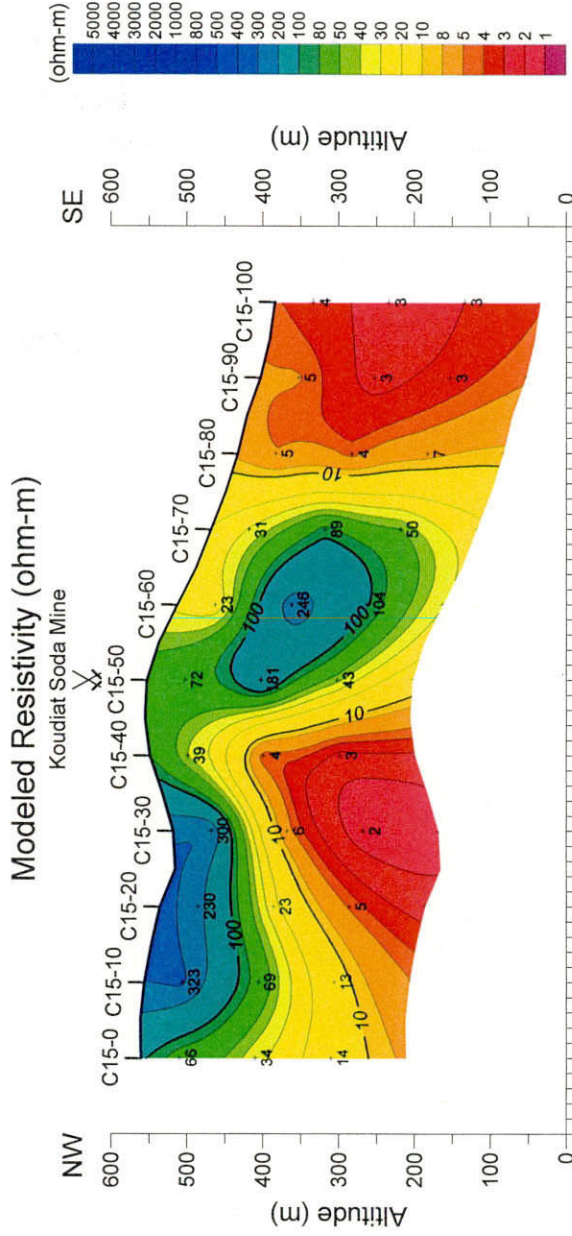


図 67 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C15)

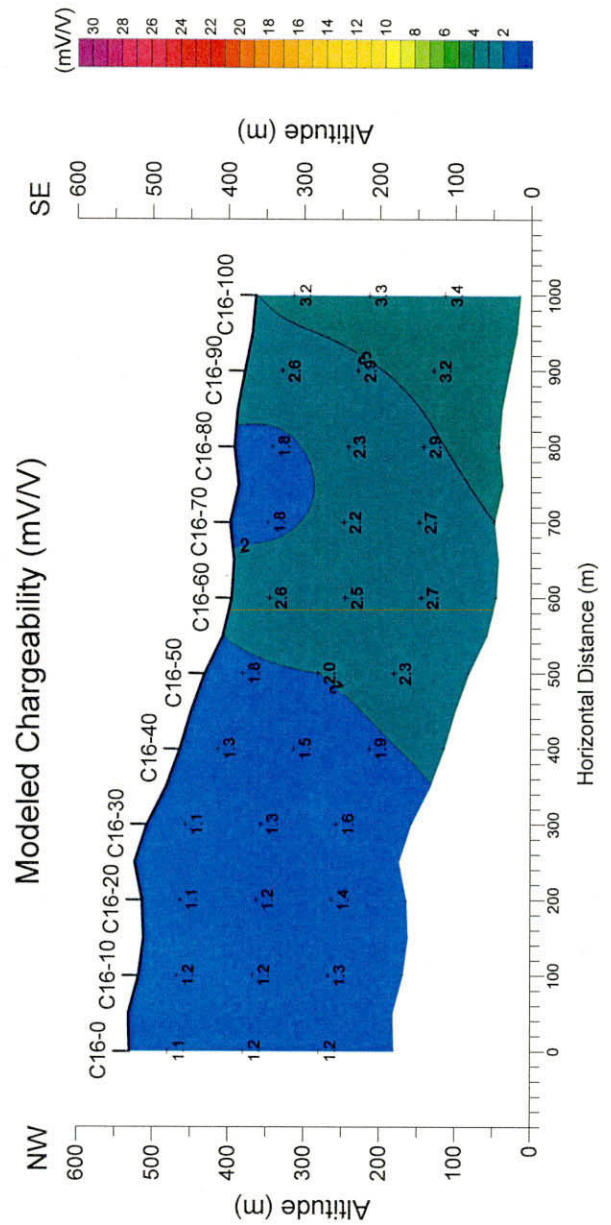
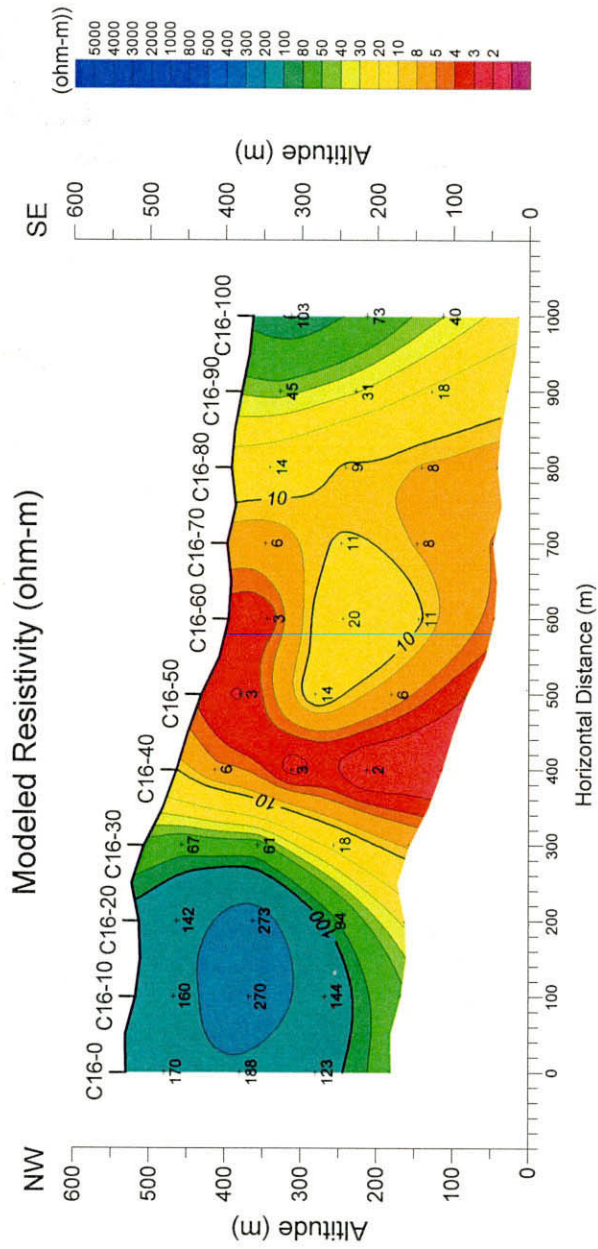


図 68 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C16)

・C17 断面 (図 69)

C16 断面の北東 500m, Koudiat Tlilett 鉍徴地の近くを通り, 北西の丘陵部から南東の平野部に向かって横断する断面である。断面中央部の C17-60 付近の深部から浅部に向かって $10\Omega\text{m}$ 以上の低比抵抗異常が伸び, 浅部では北西丘陵側の C17-30 付近まで広がっている。断面北西部の丘陵側には $100\Omega\text{m}$ を越す高比抵抗は認められず, 南東山麓部の C17-70~80 付近の浅部に $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常がある。本断面にも有意な分極率異常は認められない。

・解析比抵抗平面図 標高 200m (図 70)

調査範囲南西端には $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常があり, C4 測線付近から C7 測線の北西部にかけて $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗が分布する。この高比抵抗異常の北東側には NNE-SSW 方向の比抵抗不連続線を境に $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。この低比抵抗異常に挟まれて H'Zamel Assoued 鉍徴地に近い C7-80 付近に $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常がある。調査範囲中央部の Koudiat Safra 鉍床付近も $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常となっており, 南東平野部を通過して C7 測線付近の低比抵抗異常につながっている。H'Zamel Assoued 鉍徴地付近と同様, Koudiat Safra 鉍床周辺も低比抵抗異常に囲まれた小規模な高比抵抗異常になっている。調査範囲北東部は小規模な高比抵抗異常と低比抵抗異常が点在する。Koudiat Soda 鉍床付近は小規模な $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常に囲まれて, C14 測線北西部から東南東に延びる高比抵抗異常の先端部に位置する。Koudiat Tlilett 鉍徴地に近い C0-830 付近も低比抵抗異常に囲まれた小規模な高比抵抗異常がある。

・解析比抵抗平面図 標高 300m (図 71)

標高 200m の解析比抵抗平面図とほぼ同じような分布パターンを示すが, 全体的に比抵抗は高くなっている。標高 200m の解析比抵抗平面図では調査範囲中央の Koudiat Safra 鉍床付近の北西側にあった $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常が認められず, Koudiat Soda 鉍床付近には $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常が現れた。

・解析比抵抗平面図 標高 400m (図 72)

標高 300m より解析比抵抗は高くなり, 調査範囲の南西部と北西丘陵側は $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗が広く分布し, ブーゲ異常の高重力異常や三疊系のドロマイトの分布と調和的である。 $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常の分布範囲は狭まり, 調査地中央部付近では平野部の第四系が覆う C6 測線, C9 測線, C10 測線に限定され, 調査地北東部でも C15 測線南東部, 基線 C0-800~850 付近及び C0-920~940 付近だけになった。

・解析分極率平面図 標高 200m (図 73)

調査地南西部の H'Zamel Assoued 鉍徴地に近い C7-80~100 付近に 5mV/V 以上の弱い分極率異常があり, C6-30 付近, 北東部の Koudiat Soda 鉍床付近にも 4mV/V 以上のさらに弱い分極率異常がある。

・解析分極率平面図 標高 300m (図 74)

標高 400m の解析分極率平面図とほぼ同じような分極率分布を示す。調査範囲北東部の Koudiat

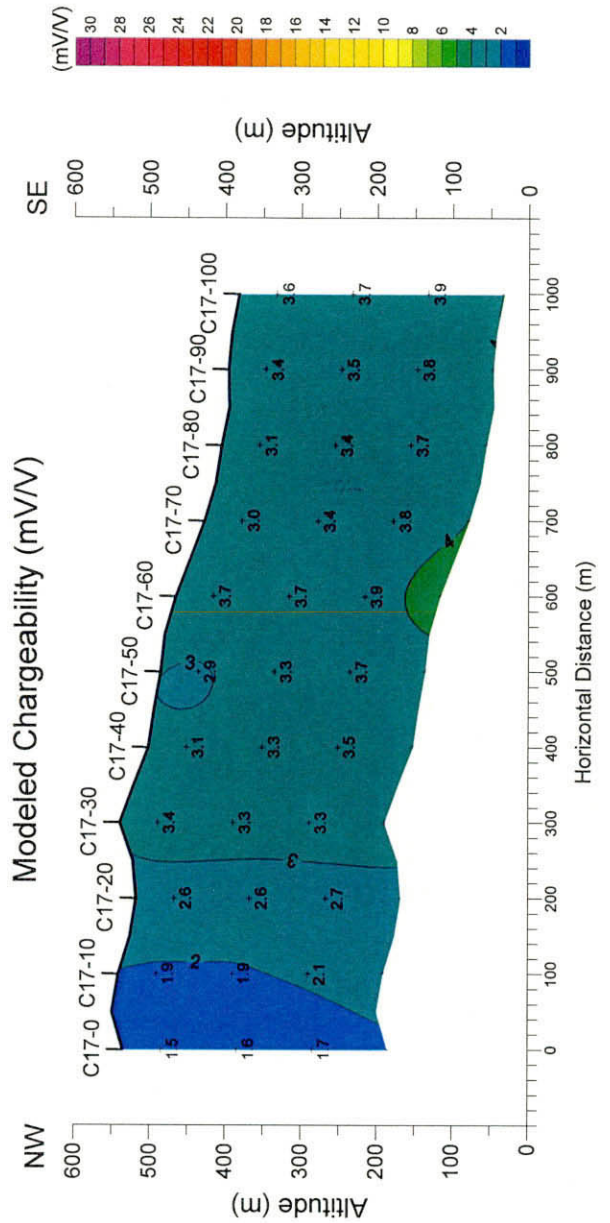
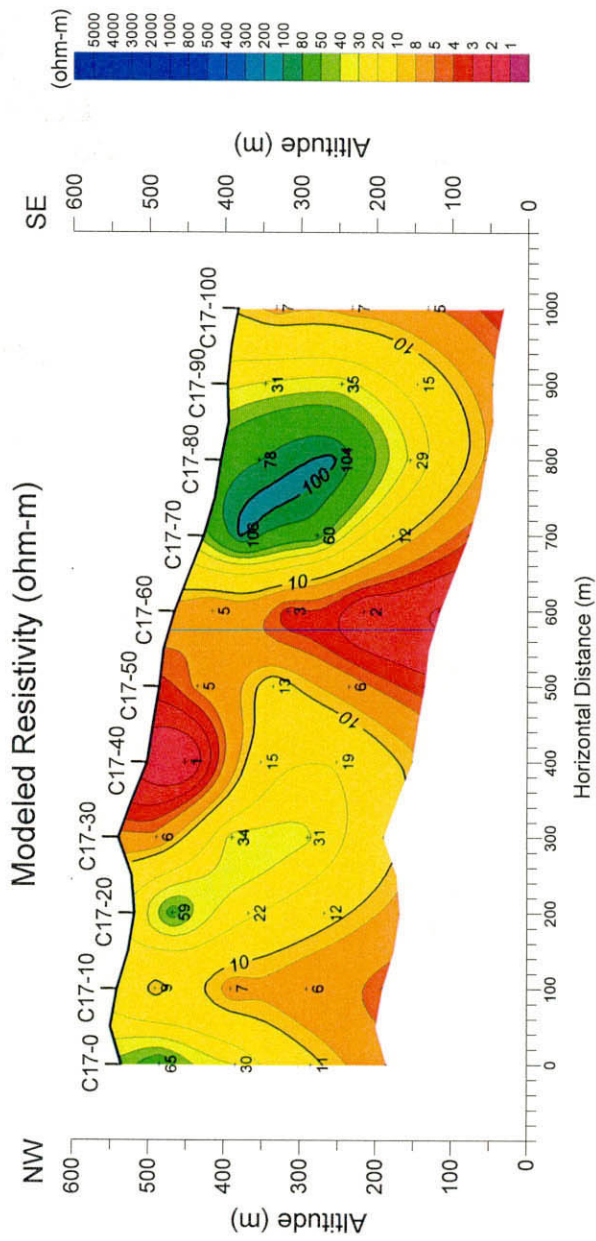


図 69 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 C17)

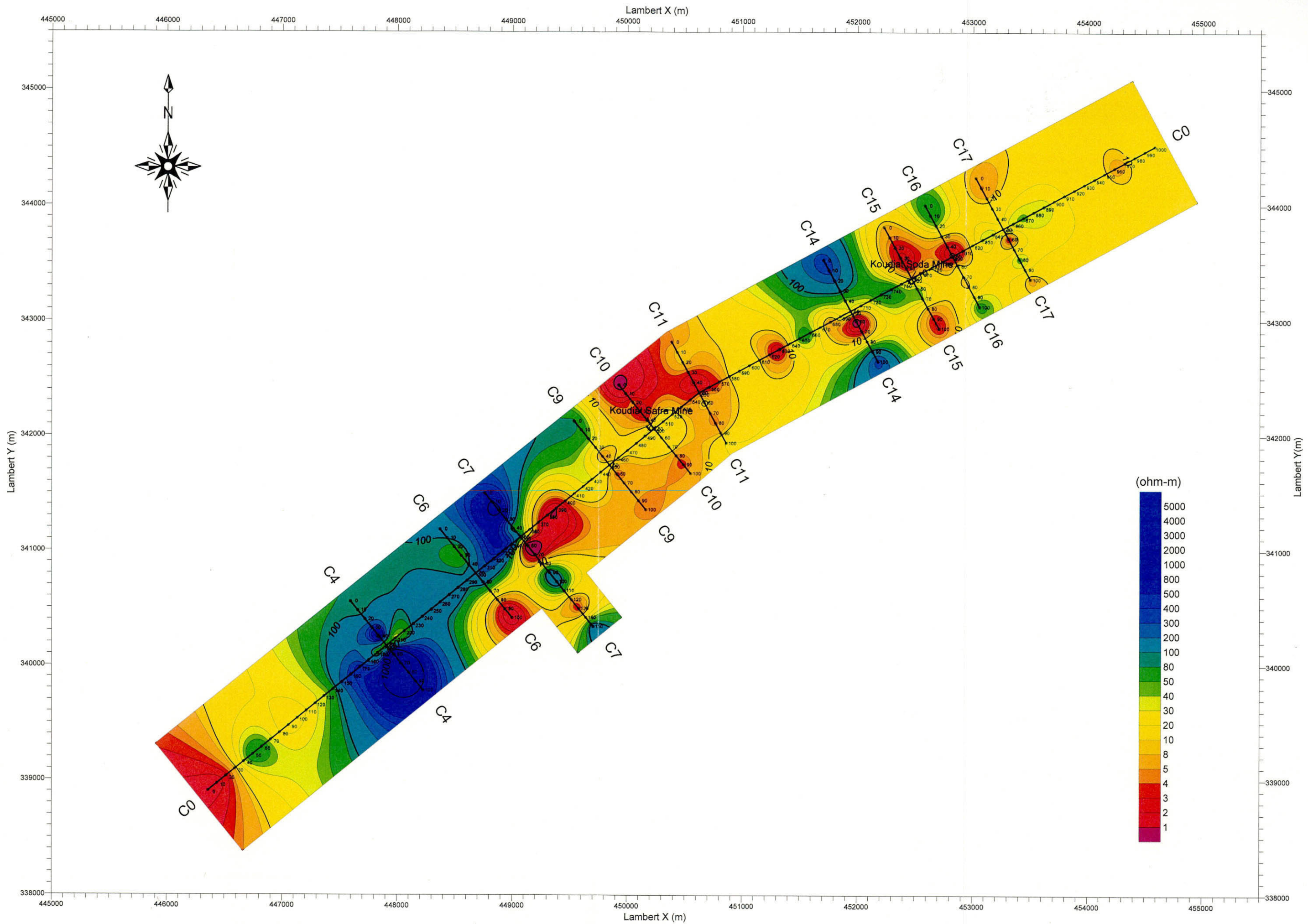


図 70 バジナ・ケビラ地区解析比抵抗平面図 (標高 200m)

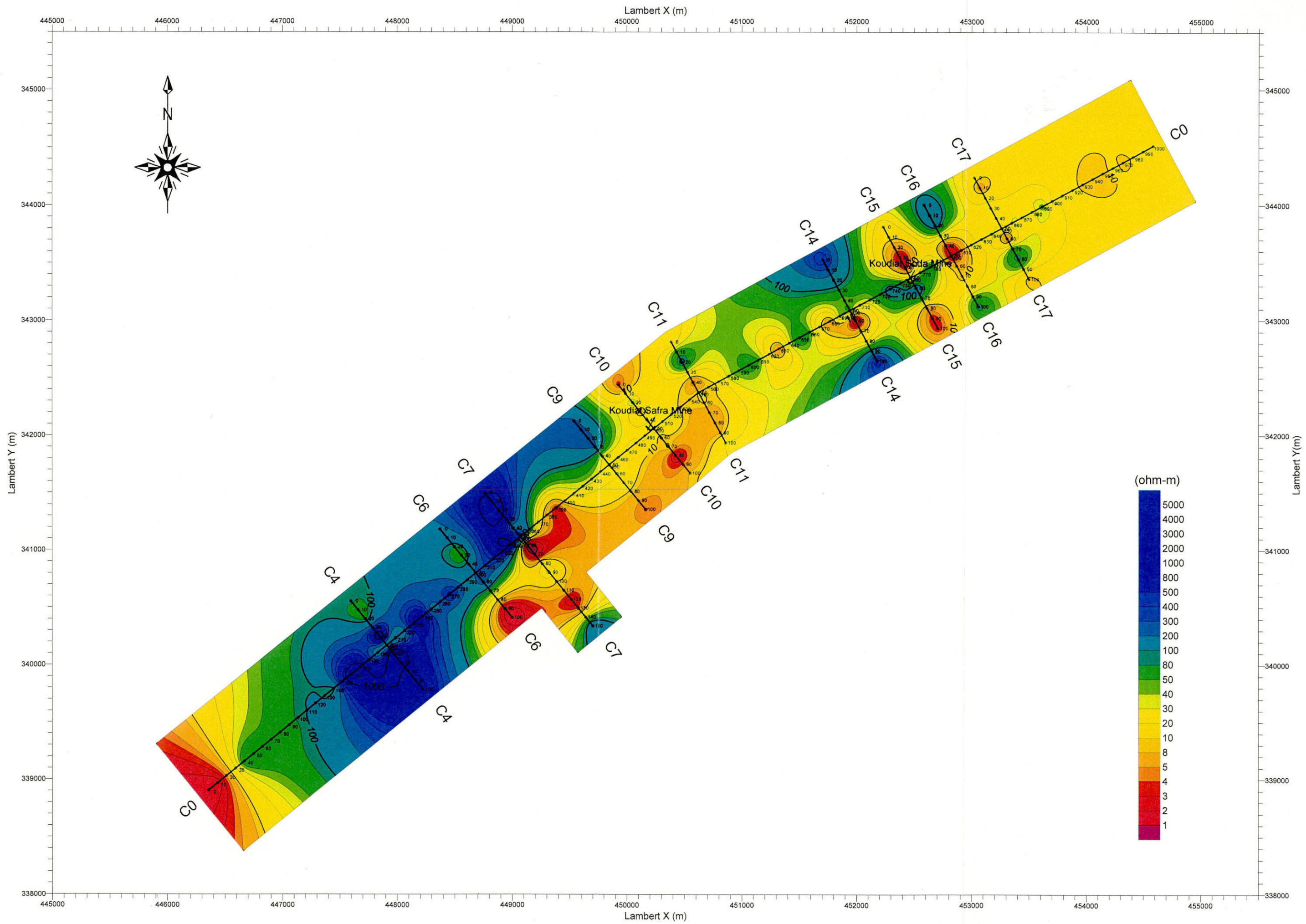


図 71 バジナ・ケビラ地区解析比抵抗平面図 (標高 300m)

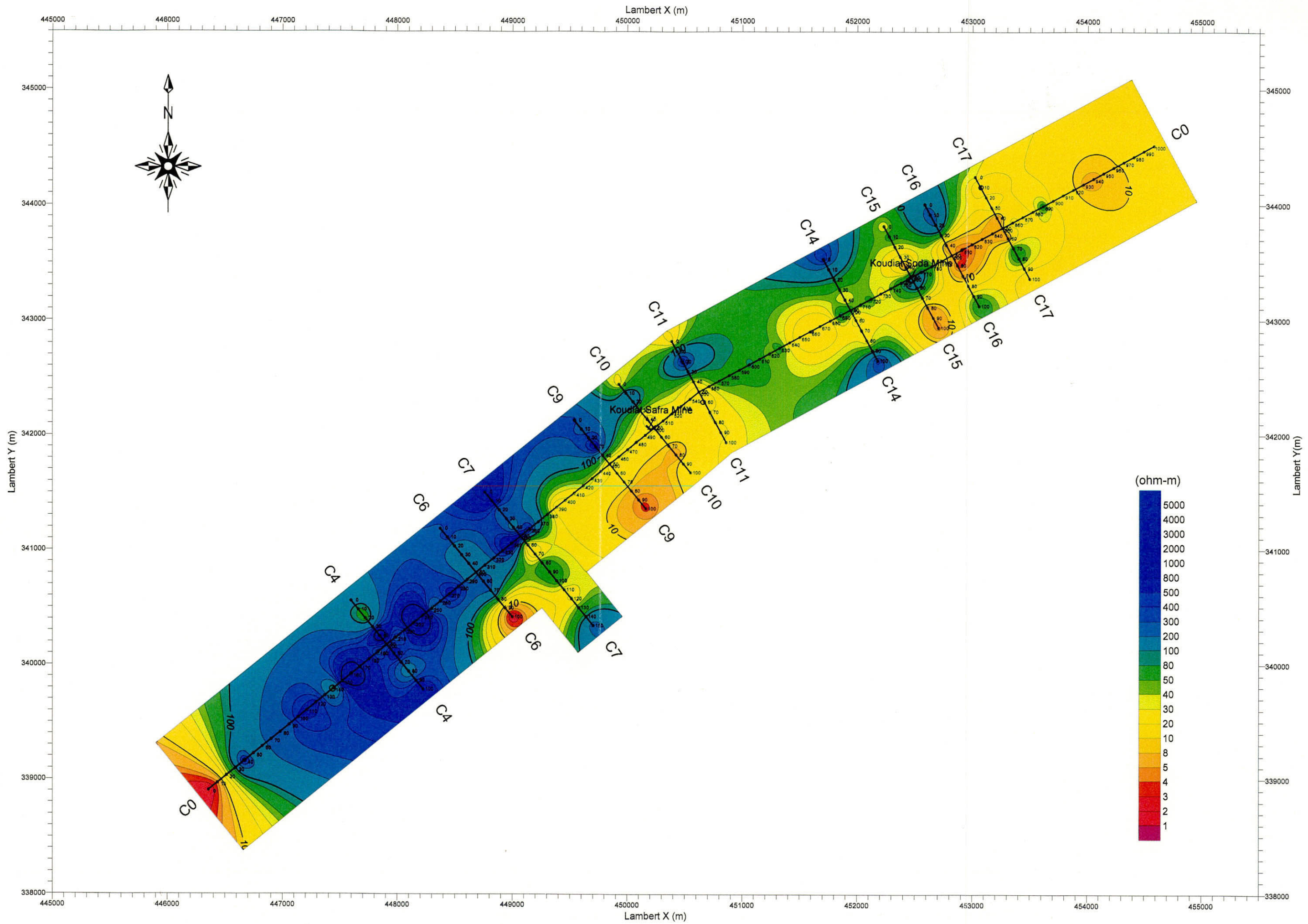


図 72 バジナ・ケビラ地区解析比抵抗平面図 (標高 400m)

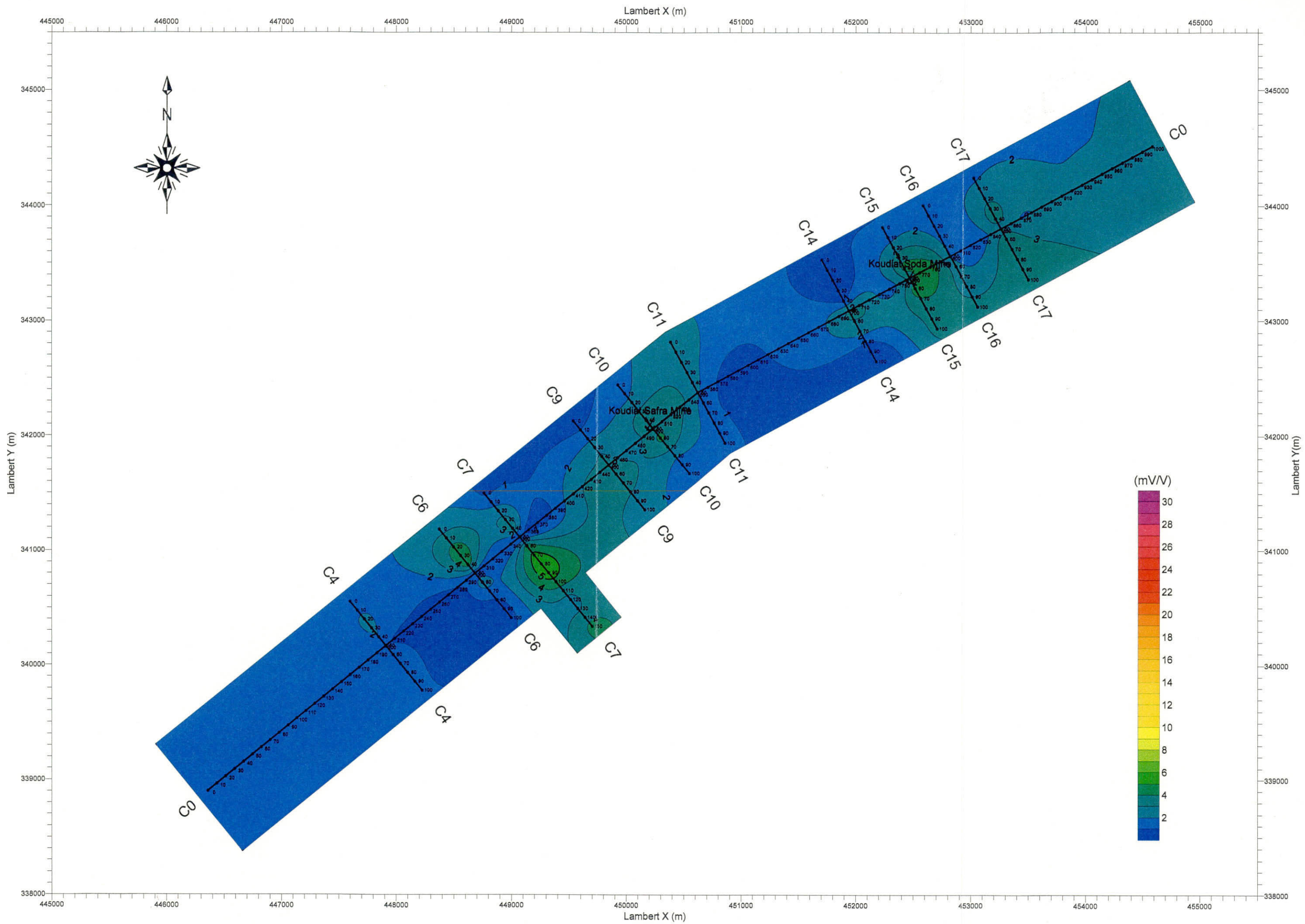


図 73 バジナ・ケビラ地区解析分極率平面図 (標高 200m)

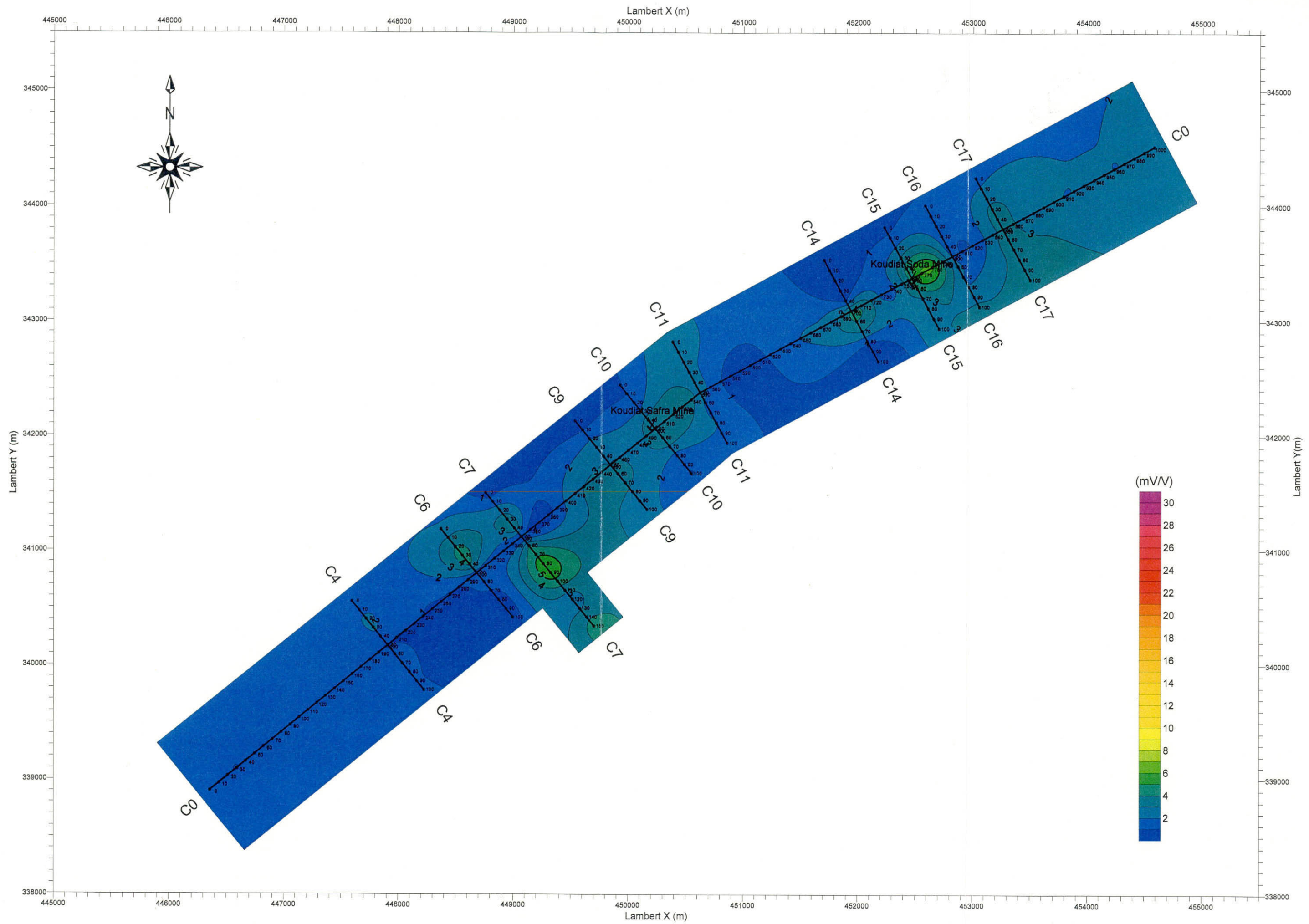


図 74 バジナ・ケビラ地区解析分極率平面図 (標高 300m)

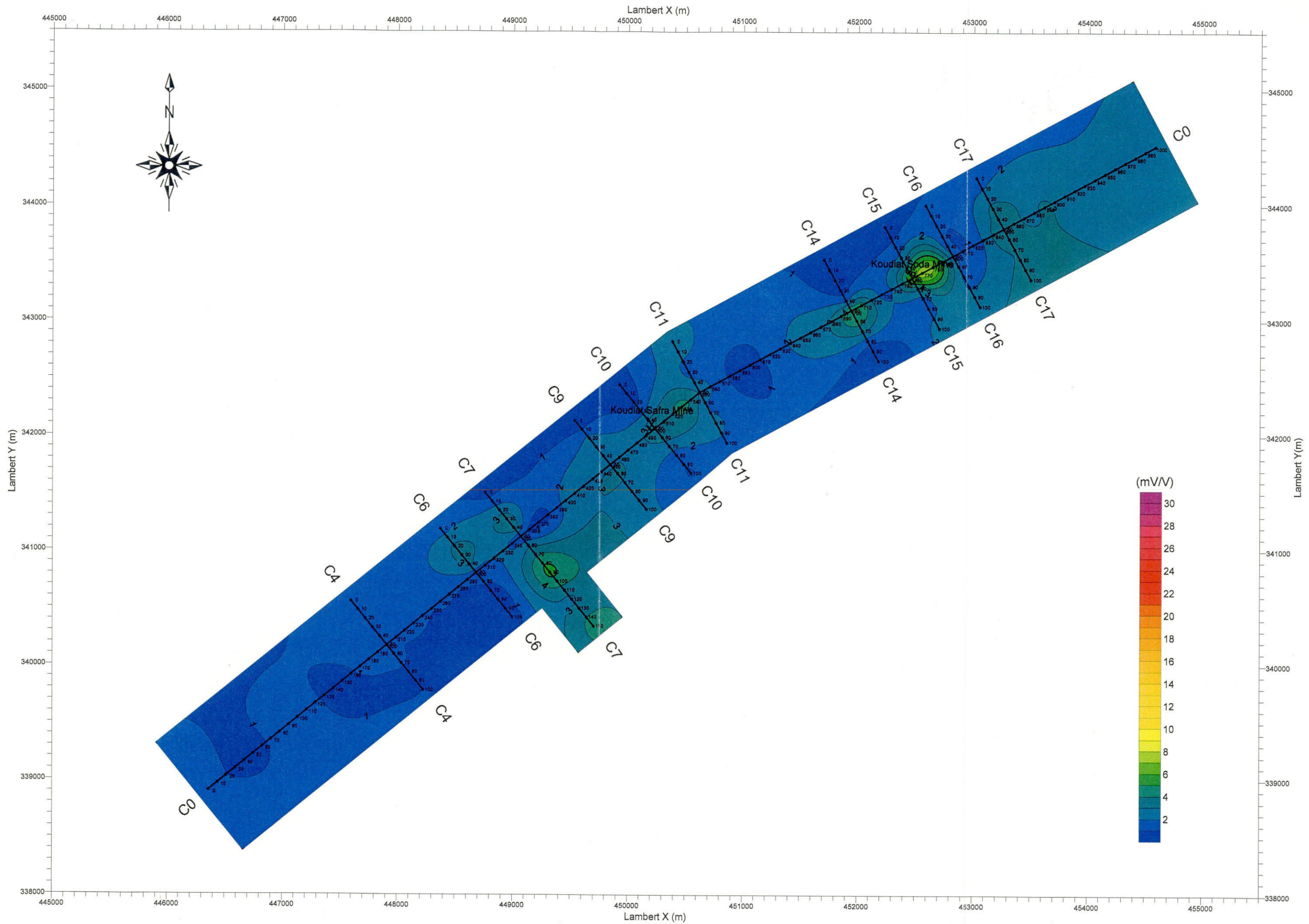
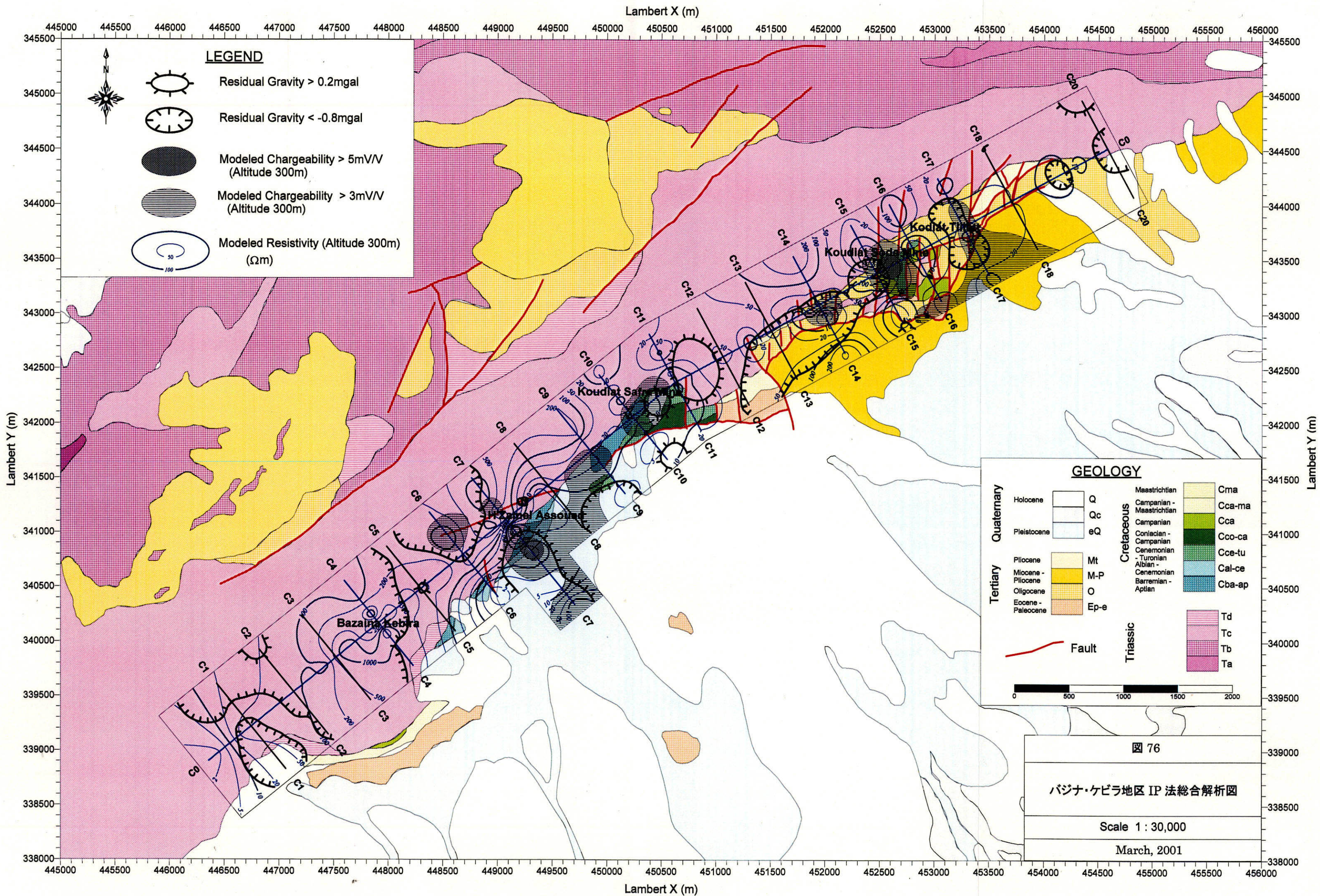
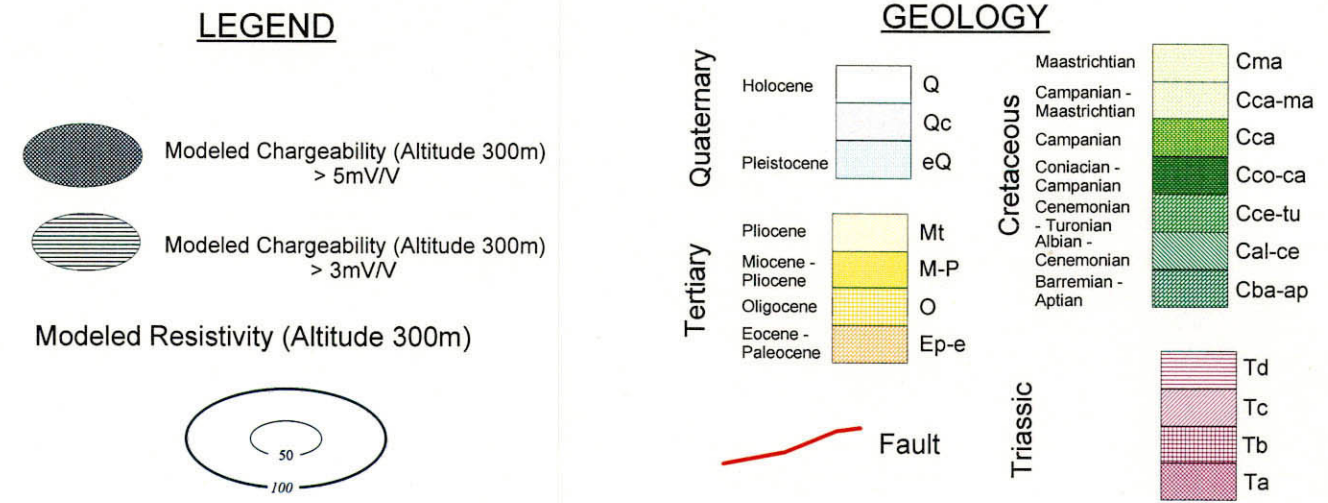
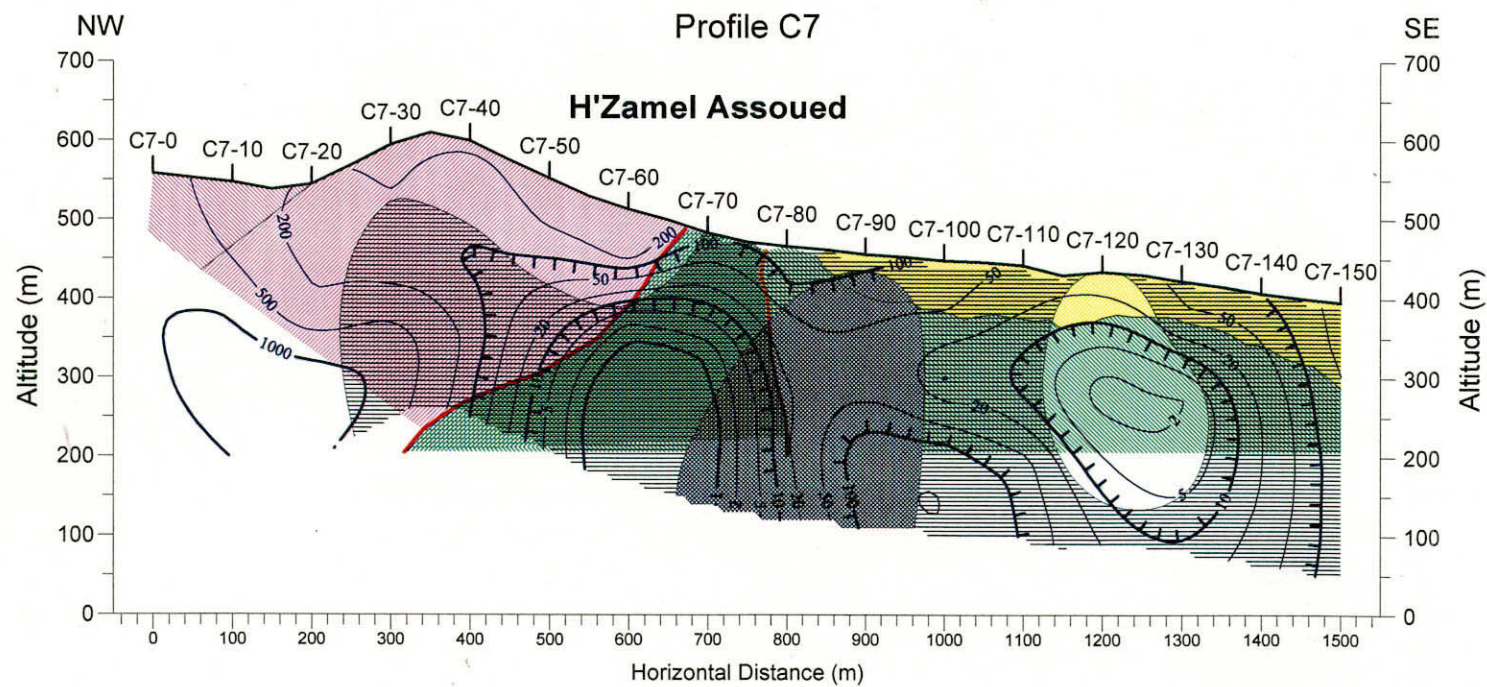
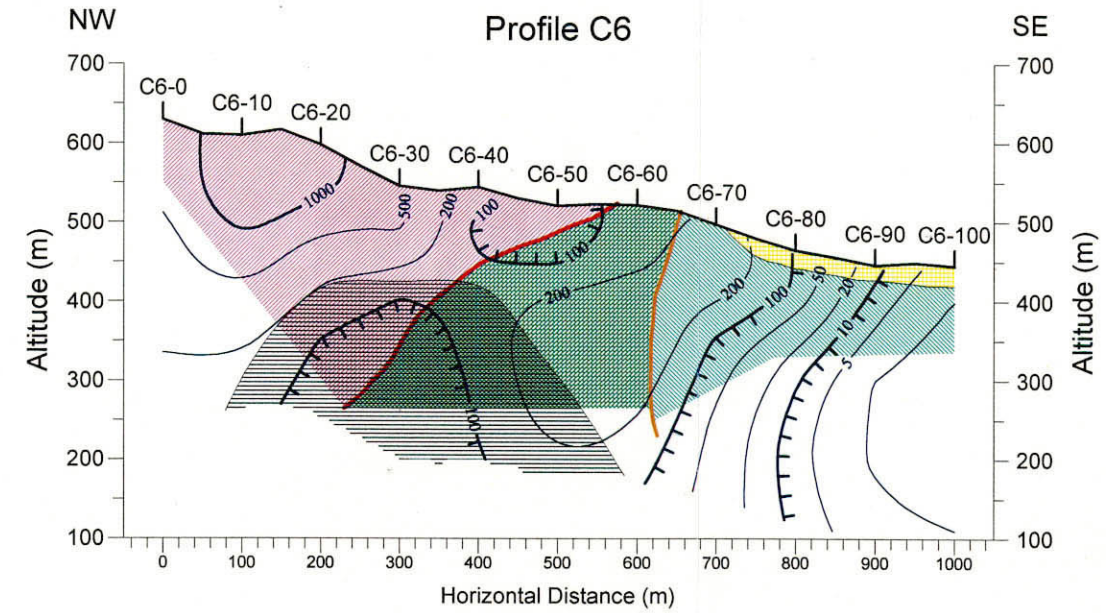
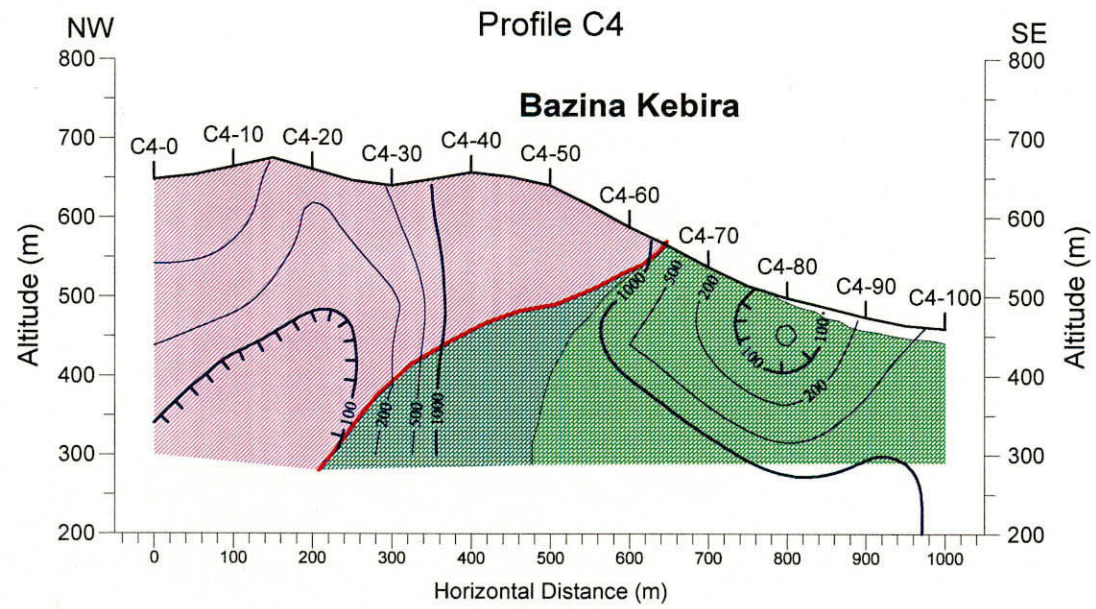
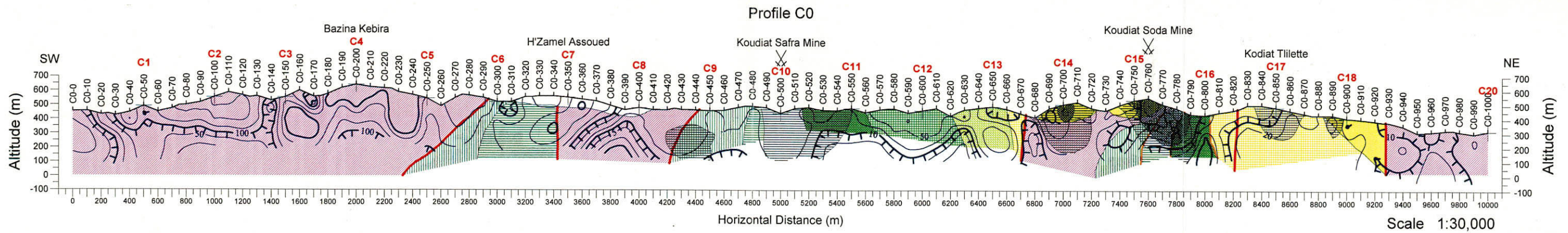
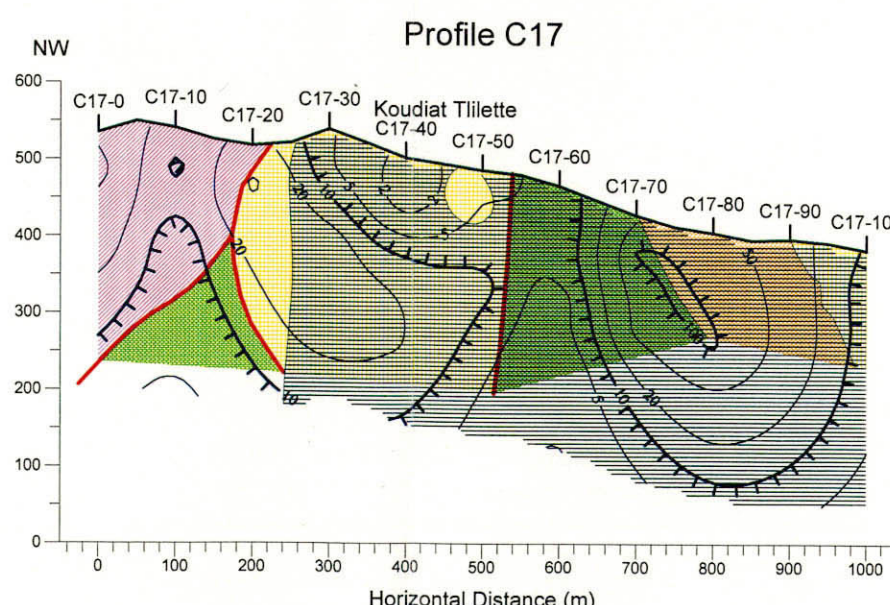
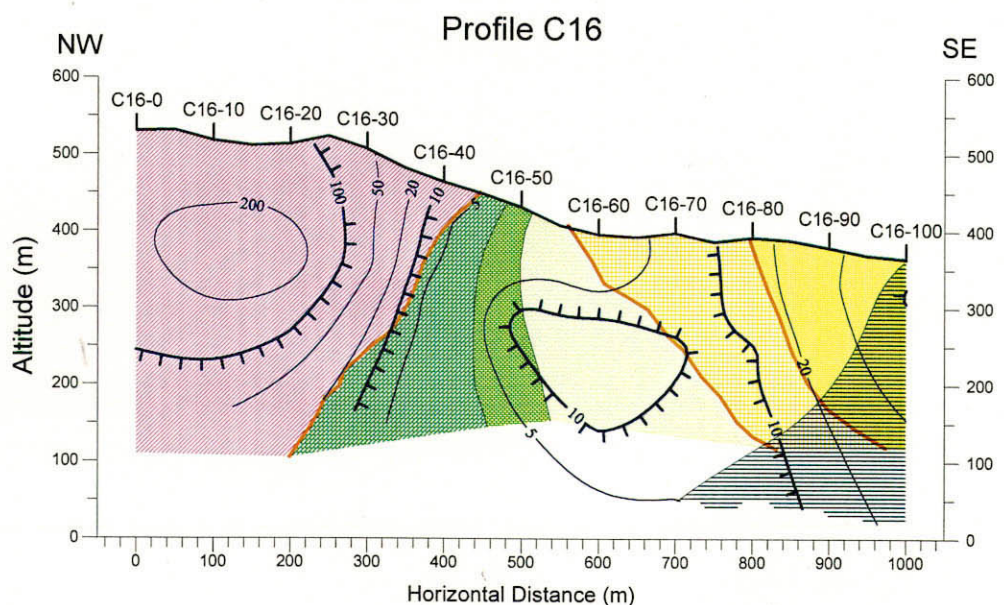
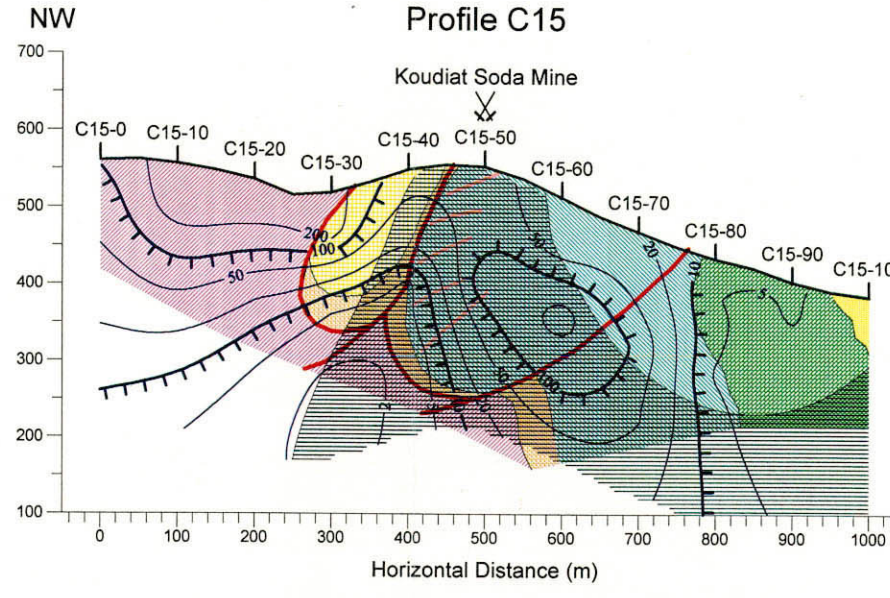
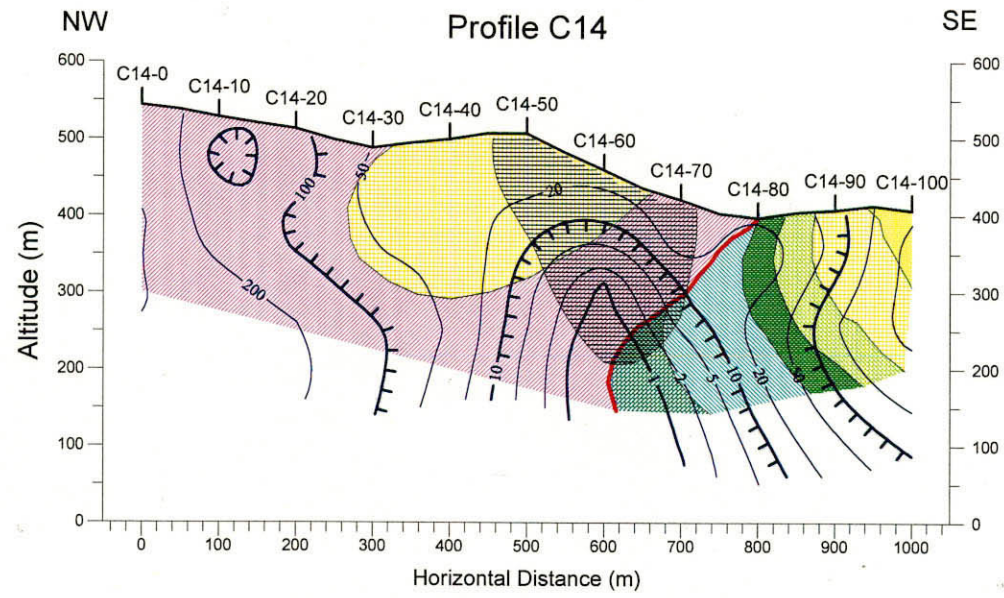
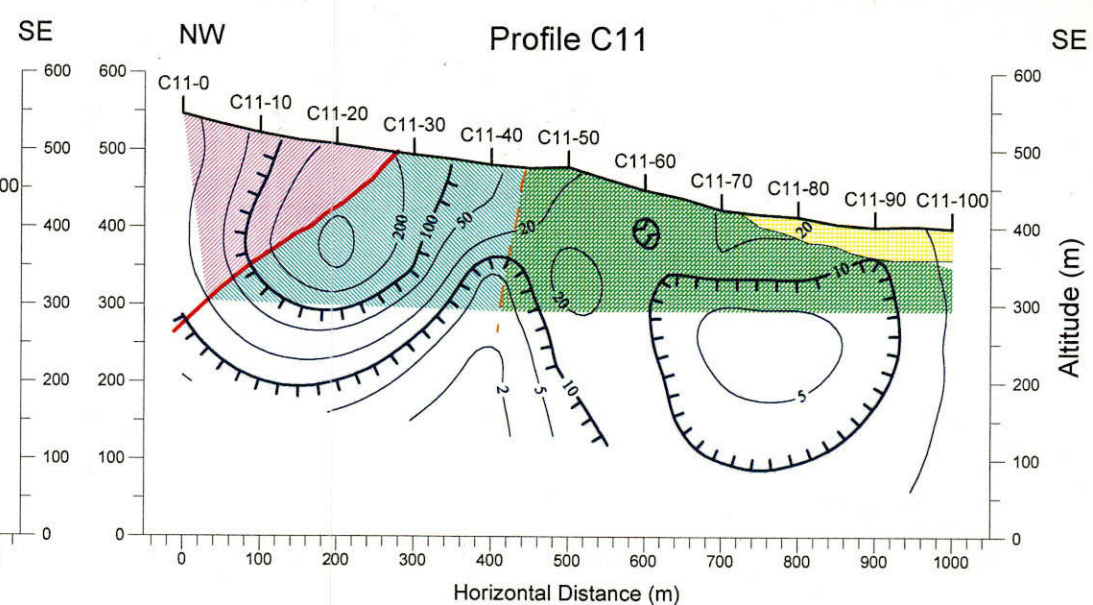
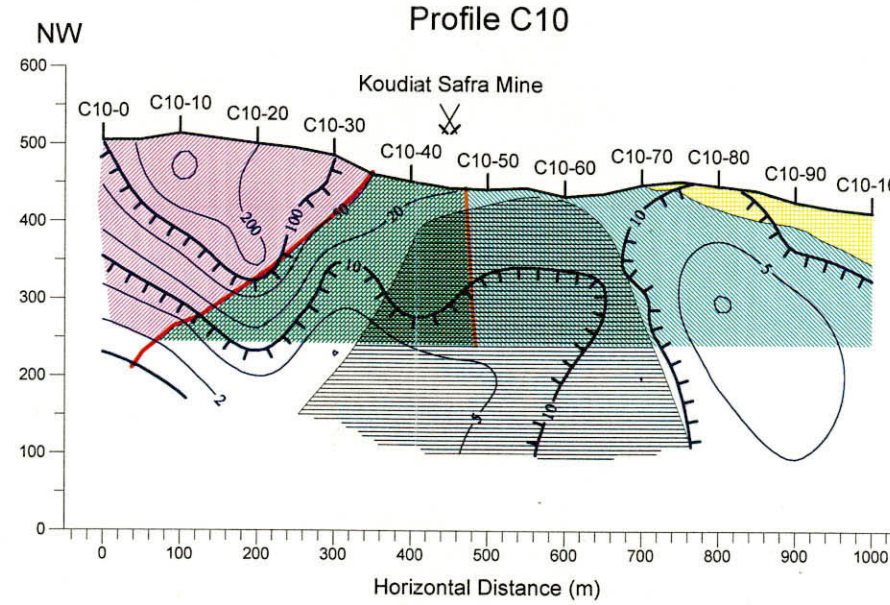
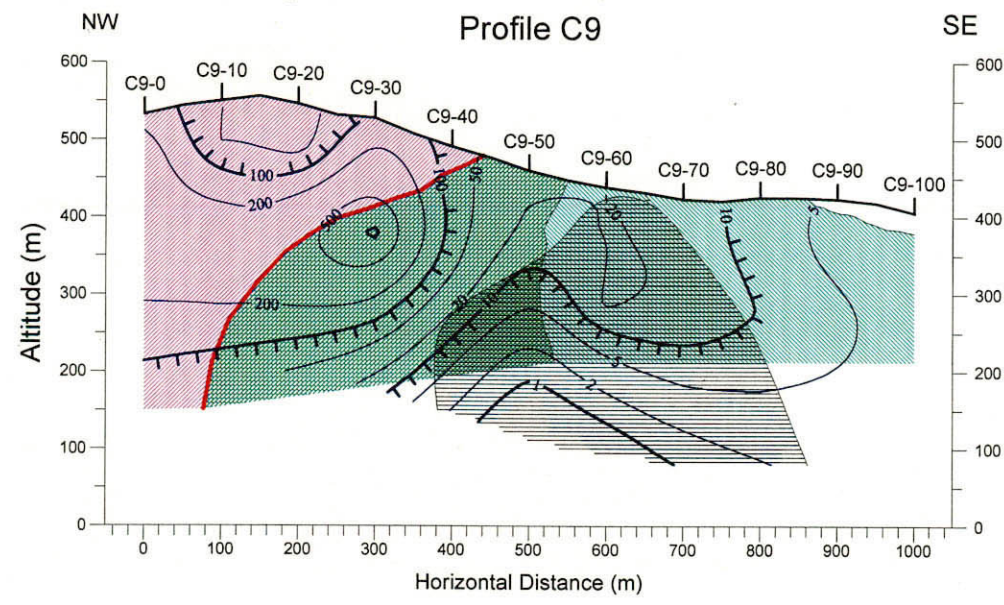


図 75 バジナ・ケビラ地区解析分極率平面図 (標高 400m)





バジナ・ケビラ地区
 図 77 IP 法総合解析断面図
 (基線 C0, 測線 C4, 測線 C6, 測線 C7)



LEGEND

- Modeled Chargeability (Altitude 300m) > 5mV/V
- Modeled Chargeability (Altitude 300m) > 3mV/V
- Modeled Resistivity (Altitude 300m)

GEOLOGY

- | | | | | |
|------------|--------------------|------|---------------------------|--------|
| Quaternary | Holocene | Q | Maastrichtian | Cma |
| | Pleistocene | Qc | Campanian - Maastrichtian | Cca-ma |
| Tertiary | Pliocene | Mt | Campanian | Cca |
| | Miocene - Pliocene | M-P | Coniacian - Campanian | Cco-ca |
| | Oligocene | O | Cenomanian - Turonian | Cce-tu |
| | Eocene - Paleocene | Ep-e | Albian - Cenomanian | Cal-ce |
| | | | Barremian - Aptian | Cba-ap |
| | | | | Td |
| | | | | Tc |
| | | | Tb | |
| | | | Ta | |

Fault

バジナ・ケビラ地区
 図 78 IP 法総合解析断面図

Scale 1:10,000

(測線 C9, 測線 C10, 測線 C11, 測線 C14, 測線 C15, 測線 C16, 測線 C17)